

。東京工業大学理学部物理専攻

1. ボルツマン方程式の導出

井上 尚

2. 超高真空透過電子顕微鏡法による表面構造及び表面吸着初期過程の研究

金森 弘雄

3. 超音波法による  $K_2ZnCl_4$  及び  $Rb_2ZnCl_4$  の弾性的性質の研究

豊田 清

4.  $(Rb_{1-x}K_x)_2ZnCl_4$  混晶系の相転移の研究

藤本 教幸

5. 不安定平衡点からの緩和

別井 圭一

6. スピングラスの非線形帯磁率

安村 薫

1. ボルツマン方程式の導出

井上 尚

中性分子気体の非平衡状態の分子論を考察する方法は種々あるが、そのうちの代表的なもののひとつはボルツマン方程式によるものである。古典力学に基づきつつも、系の非平衡過程を導く、物理的に納得できる方法を完成することは難しい問題であって、ボルツマン以来、沢山の人々によって、このボルツマン方程式の導出の研究は続けられている。この修士論文では、ボルツマン方程式の導出に関する代表的な研究の流れをいくつか紹介し、それぞれの問題点を検討している。

2. 超高真空透過電子顕微鏡法による表面構造及び表面吸着初期過程の研究

金森 弘雄